模擬事例による演習

事例概要

1. ケアマネジャーとの連携事例
2. 「在宅生活支援」の事例（サービス担当者会議）
3. 実際の業務での連携をイメージしながら
4. 取り組んでみましょう

1. ケアマネジャーとの連携事例

- **利用者**：80歳の女性、Aさん。歩行が困難で、在宅での生活を維持するために福祉用具（歩行器、手すり等）の使用が必要。
- **状況**：Aさんは介護保険を利用して在宅で生活しており、日常生活のサポートを受けています。最近、転倒リスクが高まっているため、ケアマネジャーと福祉用具専門相談員が連携して、より適切な福祉用具を提案することになりました。

設問

個人ワーク⇒グループディスカッション

1. Aさん宅を訪問している最中に、転倒リスクが高まっていることに気づきました。福祉用具専門相談員として、どのような視点で状況を分析しどのような行動を取るべきでしょうか？
2. ケアマネジャーと話し合いを行う際に、どのような情報を共有し、どのような提案を行うことが重要だと考えますか？
3. Aさんが新しい福祉用具の使用に不安を感じている場合、どのような態度で接し、どのようにサポートするのが適切でしょうか？

ケアマネジャーとの連携

- **利用者**：80歳の女性、Aさん。
歩行が困難で、在宅での生活を維持するために福祉用具（歩行器、手すり等）の使用が必要。
 - **状況**：Aさんは介護保険を利用して在宅で生活しており、日常生活のサポートを受けています。最近、転倒リスクが高まっているため、ケアマネジャーと福祉用具専門相談員が連携して、より適切な福祉用具を提案することになりました。
1. Aさん宅を訪問している最中に、転倒リスクが高まっていることに気づきました。福祉用具専門相談員として、どのような視点で状況を分析しどのような行動を取るべきでしょうか？
 2. ケアマネジャーと話し合いを行う際に、どのような情報を共有し、どのような提案を行うことが重要だと考えますか？
 3. Aさんが新しい福祉用具の使用に不安を感じている場合、どのような態度で接し、どのようにサポートするのが適切でしょうか？

発表

グループディスカッションで話し合った

設問への回答を発表

設問 1 への回答例

以下の**視点**で状況を分析

- 環境の確認: 家の中で転倒の原因となる可能性のある場所や物を特定する
(例: 滑りやすい床、段差、不要な家具など)
- 利用者の状態確認: Aさんの身体機能や日常生活動作の現状を評価し、転倒リスクがどこにあるのかを把握する
- 適切な福祉用具の提案: 転倒リスクを軽減するために、例えば新しい歩行器や手すりの設置を提案する

行動としては

- ケアマネジャーに報告: 発見したリスクと提案内容をケアマネジャーに報告し、ケアプランに反映させるよう依頼する
- 家族への説明: 家族に状況を説明し、転倒リスクを減少させるための具体的な対策を話し合う
- フォローアップ: 定期的にAさん宅を訪問し、提案した福祉用具が適切に使われているかを確認し、必要に応じて調整を行う

設問 2 への回答例

話し合いでの**情報共有**

- 利用者の現状: Aさんの身体状況や生活環境、現在使用している福祉用具の状態について詳細に共有する
- リスク評価: 転倒リスクなど、発見した課題や潜在的なリスクについて報告する
- 福祉用具の効果: 現在使用している福祉用具がどの程度効果を発揮しているか、また改善が必要な点について説明する

提案としては

- 具体的な改善策: 例として、転倒リスクを軽減するための新しい福祉用具の導入や既存の福祉用具の配置換えなどを提案する
- 教育や訓練の提案: 利用者や家族に対して、福祉用具の正しい使い方に関する指導や教育、訓練の機会を提案する

設問3への回答例

Aさんに対する態度は

- 共感的な姿勢: Aさんの不安を受け入れ、共感する姿勢を示す。「新しい道具を使うのは不安。無理せず、一緒に少しずつ慣れていきましょう。」といった声かけが有効
- 安心感の提供: 使用方法を丁寧に説明し、実際に試してもらうことで安心感を与える
- 継続的なサポート: 定期的に訪問し、使い方の確認や不安の解消を図る

具体的なサポートとしては

- 練習のサポート: 最初は一緒に練習し、使い方に慣れてもらう
- フォローアップ: 使用状況を確認し、不安や問題がないかを定期的にチェックする
- 家族の協力: 家族にも新しい福祉用具の使用方法を説明し、Aさんをサポートできるようにする

連携の流れ

- 1.福祉用具専門相談員がAさん宅を訪問し、現在使用している福祉用具の状態を確認し、必要な改良点を把握
- 2.ケアマネジャーがAさんの生活状況やケアプランに基づいて、どのような福祉用具が必要かを検討
- 3.ミーティング: ケアマネジャーと福祉用具専門相談員が定期的にミーティングを行い、Aさんの状況を共有し、適切な福祉用具の選定と設置を計画
- 4.フォローアップ: 設置後、福祉用具専門相談員が定期的に訪問し、福祉用具の使用状況をチェックし、必要に応じて調整を行う

2. サービス担当者会議の事例

手元にある資料を使用

- ・フェイスシート
- ・アセスメントシート
- ・居宅サービス計画書 1表
- ・居宅サービス計画書 2表
- ・週間サービス計画表

事例概要

O.Kさん 76歳 女性 要介護2

2024年3月初旬

自宅玄関で転倒。痛みで立ち上がれなかったため、自分で救急車を呼び、Z病院に救急搬送・右大腿部頸部骨折人工骨頭置換術による手術を受ける。

2024年5月初旬

Y病院回復期病棟へ転院。四点杖の屋内歩行が可能になる。生活リハビリのため介護老人保健施設への入所も検討したが、自宅へ戻ることを本人が強く希望、家族も協力体制が整っていることを理由に7月末に退院、在宅復帰予定。

福祉用具専門相談員として

・ 個人ワーク

①ケアマネジャーのアセスメントで、足りない情報はありますか？

ケアプランの目標と用具の関連性に問題はないですか？

②ケアプランに位置付けられた用具について

i) モデル（型・種類・デザイン）の選定とその理由

ii) 用具活用において起こりうるリスク（事故）

・ Gワーク

個人ワークでの意見を発表

サービス担当者会議での発表をイメージして i . ii の意見をまとめる

意見を言う際に気を付けることの確認も

（伝える・伝わる・理解してもらうための留意点など）

発表

グループディスカッションで話し合った

i・iiの意見をサービス担当者会議

の場面を想定して発表

まとめ

- 利用者の人権と尊厳を保持したかかわりを行う際の留意点
- ケアチームにおける福祉用具専門相談員の役割
- 専門性の発揮するために必要な知識や技術

今後の実践力の向上につなげていきましょう！